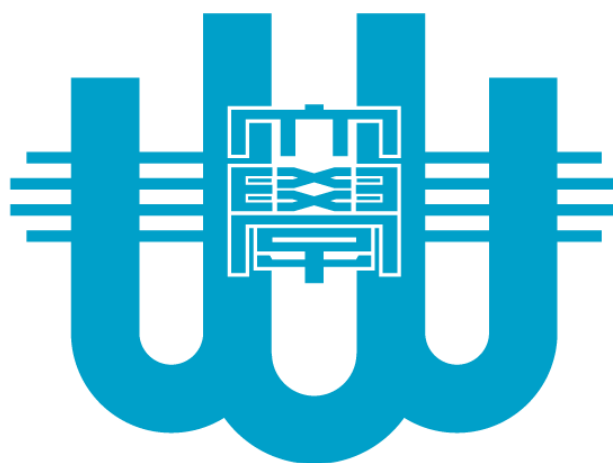


2018 年度東京純心大学自己点検・評価に関する
第三者委員会報告書



2019 年 6 月
東京純心大学

はじめに

2018年度の「東京純心大学自己点検評価書」に関する第三者評価結果を取り纏めた。最初に、外部評価委員の先生方には、ご多忙にもかかわらず資料にお目通しいただき、また本学で開催した第三者評価委員会へのご出席を賜り、貴重なご意見等を頂戴し、心より感謝申し上げます。それらの一つひとつをしっかりと受け止め、本学の発展に向けて着実に進みたい。

本学は、2018（平成30）年度より認証評価機関の一つである財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価とは別に、外部有識者3名（大学教授、地域関係者、弁護士）からなる第三者評価委員による独自の外部評価を導入した。

これは、大学全体における自己点検・評価の客観性及び妥当性を担保するとともに、諸活動の改善・改革を行う実質的な取組みの一つとしている。また、近年の私学を取り巻く環境の変化への対応は、自学のみでは非常に厳しく、見識ある外部有識者からの意見を頂戴し、変化に柔軟に対応するよう舵を切っていく。

2019年3月

東京純心大学 自己点検・評価委員会
委員長 増田 光

I. 第三者評価委員会実施概要

実施日時：2019年1月12日（土）13：30～15：30

会 場：東京純心大学第1会議室

当日スケジュール

時間	項目	概要
13：30～13：35	開会挨拶	副学長
13：35～13：40	委員紹介、出席者紹介 2018年度自己点検評価書について	概要説明
13：40～13：55	基準1：本学の使命・目的等	概要説明と質疑応答
13：55～14：10	基準2：学生	概要説明と質疑応答
14：10～14：25	基準3：教育課程	概要説明と質疑応答
14：25～14：40	基準4：教員・職員	概要説明と質疑応答
14：40～14：55	基準5：経営・管理と財務	概要説明と質疑応答
14：55～15：10	基準6：内部質保証	概要説明と質疑応答
15：10～15：20	独自基準	概要説明と質疑応答
15：20～15：30	評価委員による総評	
15：30	閉会挨拶	自己点検・評価委員長

II. 第三者評価委員による評価

(1) 総括

東京純心大学は、学生数に課題はあるものの、順調であると評価する。

(2) 参考意見等

- ・現代文化学部こども文化学科の特別入試（外国人留学生）のアピールが不足している。（基準2）
- ・奨学金制度のアピールが不足している。（基準2）
- ・学生のメンタルな落ち込みに対する対応は十分である。（基準3）
- ・「建学の精神」や「教育理念」を大切にし、学生自身に自分のことを多角的に観られるよう教育してもらいたい。（基準3）
- ・各種FD及びSDの充実を図るべきである。（基準4）
- ・災害時の学生などへの対応は問題ないが、さらに余念がないように取組むべきである。（基準5）
- ・財務基盤の強化を図るためのアクションプランの策定は評価できるが、スピード感ある対応をすること。（基準5）
- ・自己点検評価は年度のPDCAサイクルであるが、大学の年次に合わせて4年のPDCAサイクル

も検討すべきである。(基準6)

- ・ ホームページの刷新が必要である。(その他)
- ・ 教員と学生との IT を活用したコミュニケーションツールについて検討すべきである。(その他)
- ・ ICT を活用した教育について検討すべきである。(その他)

(3) 各委員からの総評

A委員

貴学は、寄附行為、学則及び学内組織は基準を十分に満たしており、また小規模大学のメリットを生かして、アドバイザー制度やオフィスアワー等を活用して、キメ細やかな学生への対応をしていることは評価でき、魅力の一つである。

働き方改革において、外国人が多くなることが予測され、それにより、保育園や幼稚園に多数の外国の子供達を受入れることが想定されるため、多文化に対応できる学生を育てる必要がある。

また、本邦に外国人の居住者や旅行者が多くなることによって医療現場においても、様々な課題が生じることが予測されるため、医療人としてコミュニケーションを図るためにも、文化を含めた基礎知識を習得させる必要もあるので、貴学は従前より定評のある英語教育を活用するなどして対応してほしい。

B委員

貴学の「建学の精神」及び「教育理念」には感銘を受けるが、学生数が減少していることへの対応に関しては不十分である。学生のニーズ等を敏感に察知し大学全体で募集（インターネット出願）の方法やターゲットの絞り方について十分な対応を取っているとは見受けられない。

また、国内の少子高齢社会による18歳人口の減少は現実なため、外国人留学生などに目を向け、居住環境も含めた上で検討すべきである。

さらには、国の動向にも目を向ければ、働き方改革や外国人労働者の受入れなどの政策を打ち出していることを踏まえて、留学生の受入れや、国内外の優秀で経済的に恵まれない学生への奨学金制度を充実させるべきであり、貴学の様々な経験を活かすべきである。

C委員

貴学は、「建学の精神」及び「教育理念」に基づき、カリキュラムも工夫し作り込まれているが、学生数に問題があることは明白である。学生数は、大学の知名度と関連性が高いが、貴学名についての認知度は低い。貴学はPR方法自体を抜本的に改善しない限り、厳しい状況が続く。

立地条件の厳しい大学は、移転や主要な駅にサテライトキャンパスを置くことが多くなっ

ているため、近隣や都内に生涯学習センターを置くなどしてPRを図り、認知度を上げていくことも一つの方策である。

また、現代文化学部こども文化学科は、受験生が学科名から幼稚園教諭や保育士資格を目指すとは認識されにくい。

さらに、不均衡な収支バランスについての是正は必須である。教職員への人件費の縮小は、後ろ向きに捉えられがちであるため、学生数を増やすことを全面的に考えるべきである。

以上